

児童館ガイドライン「児童館の活動内容」

子どもが意見を述べる場の提供

- ① 児童館は、子どもの年齢及び発達に応じて子どもの意見が尊重されるように努めること。
- ② 児童館の活動や地域の行事に子どもが参加して自由に意見を述べるができるようにすること。
- ③ 子どもの話し合いの場を計画的に設け、中・高校生世代が中心となり子ども同士の役割分担を支援するなど、自分たちで活動を作り上げることができるように援助すること。
- ④ 子どもの自発的活動を継続的に支援し、子どもの視点や意見が児童館の運営や地域の活動に生かせるように努めること。

遊びによる
子どもの育成子どもの
居場所の提供子どもが意見を
述べる場の提供配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくりボランティア等の
育成と活動支援放課後児童クラブの
実施と連携

おばけやしき

■ 児童館の概要

名 称	八王子市立元八王子児童館
設 置 主 体	八王子市
運 営 主 体	八王子市子ども家庭部児童青少年課
開 設 年 月	昭和48（1973）年6月
開 館 時 間	平日10：15-19：00 第4日曜日9：15-18：00 ※小学生は10月～2月は17時まで、3月～9月は17：45まで 休館日：第4日曜日以外の日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）
所 在 地	東京都八王子市大楽寺町508-3
ホームページ等	https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kosodate/017/003/jk002/p000999.html
児 童 館 種 別	小型児童館
占 有 面 積	土地1284.71㎡ 建物372.00㎡
職 員 数	常勤3人、非常勤2人
年 間 利 用 者 数	平成30年度館内利用者数 20,631人 平成29年度館内利用者数 23,616人 ※そのほか、出張児童館等の館外事業も行っています。
自 治 体 の 人 口	八王子市/562,480人（令和元（2019）年12月末現在）
主 な 利 用 児 童 の 学 校 数	小学校5校、中学校5校、高校は多様 ※登録者の学校数としては、全体で小学校23校、中学校21校、高校47校



活動の前提にあるもの

元八王子児童館では「子どもの遊び」において、「子どもたちが主体的に遊ぶこと」を大切にしています。「おばけやしき」についても、企画、制作、当日の運営に至るまでのすべてを実行委員の子どもたちに任せています。「どんな『おばけやしき』にしたいのか?」、「どうすれば実現できるのか?」など、子どもたちは自由に意見を出し合いながら準備を進め、当日も主体的に運営に携わります。

活動の概要

- 児童館が会場となる「おばけやしき」（開催期間は6日間）は、毎年2月の恒例行事となっており、ここ数年の来場者数は1,000人を超え、地域以外の住民にも知られる一大イベントになっています。
- 「おばけやしき」の企画、制作、当日の運営を担っているのは、小中学生による「実行委員会」の約100人です。実行委員を務める約20人の小学生は、普段から児童館を利用している子どもたちで、自らの意思で実行委員に登録しています。
- 実行委員を務める中学生は、児童館近くの中学校（2校）の生徒会、美術部、DIY部に所属する約80人で、部活動を兼ね、それぞれの得意分野で力を発揮し、「おばけやしき」の内部を作り上げていきます。

～元八王子児童館の「おばけやしき」の特徴～

児童館の利用者は0歳児から18歳未満と年齢に幅があることから、元八王子児童館では、実行委員となった子どもたちに「怖いだけの『おばけやしき』ではなく、来てくれた人が楽しみ、感動できる『おばけやしき』にしよう!」と呼び掛けています。そのため、元八王子児童館の「おばけやしき」には、未就学児が喜ぶキャラクターなどの手作り装飾が施されている一方で、大人顔負けの奥行きのある世界が遠近法で描かれていたり、来場者が乗れるトロツコを走らせるなど、「おばけやしき」自体がエンターテインメント性のあるテーマパークのような空間になっています。

遊びによる
子どもの育成子どもの
居場所の提供子どもが意見を
述べる場の提供配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくりボランティア等の
育成と活動支援放課後児童クラブの
実施と連携

活動のポイント

子どもが意見を述べる場所の提供

実行委員会

【小学生】

事前に登録した小学生（複数の小学校の小4～小6の約20人）による実行委員会の日時が決められているのは、第1回目のみとなっています。日時を決めても、習い事などがあり全員が揃うことは難しいため、2回目以降からは、実行委員の子どもたちが児童館に来たときが実行委員会の日になります。その日に来館した実行委員が主体となり、必要な話し合いを行い、決定し、作業に取り組みます。自ら希望して実行委員になった子どもは、前向きに取り組むことが多く、実行委員会に参加するために習い事に行く前の10分間だけ顔を出す子どもがいたり、前年度に実行委員を経験している子どもたちが、引っ張っていく様子も見受けられたりします。来場者を喜ばせてあげたい、良いおぼけやしき作り上げたいという共通の目的のもと、協力して取り組むことで、学校や学年の枠を超え、縦横のつながりが生まれています。

【中学生】

児童館の近くにある2つの中学校の生徒たち（約80人）が関わっています。2校における生徒会と美術部、内1校のDIY部の生徒たちが、実行委員を務めます。部活動を兼ねていることから、主な活動場所は学校になりますが、トロツコの設置や、大型絵画の搬入など、必要に応じて児童館へ来館する機会もあります。また、小学生のときに実行委員を務めた生徒が各部に一定数いるため、来館した際に、館内にいる小学生の実行委員に助言をすることもあります。中学生になると部活動や習い事で多忙になるため、児童館を利用する機会は減るものの、「おぼけやしき」に関わりたいという理由で、美術部やDIY部に入部する子どももいます。

【小学生、中学生に共通】

子どもたちから新しいアイデアが出た場合は、その実現に向けた支援を必要に応じて行います。例えば、平成30（2018）年度の「おぼけやしき」においては、中学生から「小学生が帰った後の17時から18時までの1時間は、来場者が中学生以上になるので怖さのレベルを上げたい」といった意見が出たことから、生徒たちで話し合い、新たな試みとして衣装を着用しました。



実践する上での工夫点や注意点

✓ 子どもたちが意見を述べやすい雰囲気をつくる

子どもたちは、学校や学年が異なる場合もあり、特に最初の段階においては、意見を述べることを躊躇しがちです。そこで、職員が子どもたちの間に入り、意見を引き出すことが重要になります。職員が、子どもたちから出る意見やアイデアを全面的に尊重し、受け入れることで、「何を言っても否定されない」、「どんな意見やアイデアでも自由に言葉にしている」という雰囲気がつくられていきます。

✓ 意見やアイデアを共有し、サポートする

子どもたちの達成感や、完成したものがイメージに近いかどうかによることから、職員には子どもたちとイメージを共有することが求められます。そこで、計画の段階で、子どもたちが思い描く『おばけやしき』を絵で表現してもらっています。小学生はイメージしたり、意見を述べることはできても、実現するための方法で行き詰まることが多いため、職員は必要に応じてサポートをすることが大切です。

✓ 無理はさせない

小学生が実行委員に登録できるのは4年生からになりますが、習い事をしている子どもの割合は高く、児童館に来られる日や、児童館にいられる時間には限りがあり、活動を強制しないことが大切です。「来られるときだけでいい」という考え方を明確に打ち出し、無理をさせないようにすることで、やらされるものではない、自主的な活動となっています。中学生の実行委員においては、部活動の一環にもなっていることから、美術部員が「おばけやしき」のために制作した作品を作品展に展示するなど、部活動と実行委員としての活動が両立できるよう配慮されています。

✓ 完成形を決めない

「おばけやしき」には、「完成」はありません。職員の目には「未完成」と映ったとしても、ある程度形になっていれば、大半の子どもが満足します。逆に、職員が「完成」と思っても、子どもたちが作業を続けることもあります。また、6年生が手掛けた完成度の高いものを見た4年生が「来年は、もっと頑張りたい」と口にすることもあります。完成形を決めないことが、想像力に広がりを持たせ、子どもの意欲につながります。

✓ 「楽しかった」という記憶を大切にする

一度、実行委員を務めた子どもたちに、翌年も務めてもらうためには、「楽しかった」記憶が必要です。上記の工夫点や注意点は、すべて、子どもたちの「楽しかった」を醸成するためのものといえます。

遊びによる
子どもの育成子どもの
居場所の提供子どもが意見を
述べる場の提供配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくりボランティア等の
育成と活動支援放課後児童クラブの
実施と連携



活動を通して見られる子どもの**変化**

最初は指示を待つことが多かった子どもたちが、日を追うごとに、自主的に発言し、意欲的に実行委員としての責任を果たすようになります。また、「おばけやしき」への参画を機に、他のプログラムにも意欲的に参加するようになる子どももいます。学校関係者からは『おばけやしき』の実行委員を務めたことが自信となり、学校での発言回数が増えた」といった報告も寄せられています。子どもたちは「自分の意見を言う」、「人の意見を聞く」、「自分の意見が通る、通らない」といった経験を通して、同じ目標に向かう場合でも、意見やアプローチの仕方は多様であることを学び、成長していると考えられます。その成長を妨げないためにも、職員が関与しすぎないことが大切です。



「おばけやしき」の実行委員の**感想**

※一部抜粋

みんなで一緒にやって、うまかった。実行委員をやってよかった

(来た人たちに)
『すごいね』とほめられてうれしかった

学校の朝会で話してもらえてうれしかった



「おばけやしき」の来場者の**感想**

※一部抜粋

よく作ったね。感心しました。来年も楽しみです
(学校関係者)

美術部の絵がすごい!
(子ども)

怖さもあり、癒しもあり、不思議な世界に迷い込みました
(大人)

中学生の一生懸命さを感じた (学校関係者)

おばけがやさしく道案内をしてくれて楽しかった
(子ども)

小学生と中学生が協力しあって作り上げ、運営をするという素晴らしい取組だと思います
(大人)

など



活動がもたらす多様な効果

【小学生の場合】

小学生の実行委員は、自分たちが所属する学校の校長や、担任の教諭宛に招待状を作成します。招待された小学校関係者のほとんどが「おぼけやしき」を訪れ、そのクオリティの高さに驚き、子どもたちが作り上げた「おぼけやしき」という作品を高く評価するため、子どもたちの自己肯定感が高まる機会になっています。また、小学校と児童館とのつながりが深まるというメリットもあります。

【中学生の場合】

中学生の場合、実行委員を対象とした「説明会」が毎年11月に、児童館で開かれます。そこには、各校の校長や部活の顧問、児童館の設置運営主体である八王子市子ども家庭部児童青少年課の職員も同席します。説明会では、前年度の様子や来場者の感想などが伝えられ、学校や部活が異なる中学生たちの共通理解の機会であるとともに、「協調性」や「やる気」を醸成する機会になっています。また、部活動を巻き込んだ取組になっているため、「おぼけやしき」の目的や概要を知らない教員や管理職が赴任してきた場合は、学校関係者向けの説明会も行っています。中学生実行委員の活動内容は学校に委ねていますが、「子どもの主体性を重んじる」児童館の考え方は、学校関係者と共有されており、生徒たちが自由に意見を出し合う雰囲気は確立されています。

【小学生、中学生に共通】

子どもたちは、地域のコンビニエンスストアや銀行などに出向き、「おぼけやしき」のポスターを掲出してもらうための交渉も行います。これにより、子どもたちは地域とつながり、地域が子どもたちを見守る目も育まれることを期待しています。また、「おぼけやしき」はテレビ、ラジオ、新聞、フリーペーパーなど各種媒体で紹介されることもあり、来場者の年代は多岐にわたり、平成30（2018）年度の来場者数は1,000人を超えました。そうした中で、「地域の大人」から「すごいね」、「おもしろかった」、「感動した」と評価されることは、子どもたちの大きな自信につながります。また、来場した学校関係者が、学校では見せない子どもの新たな一面に出会うこともあり、子どものことを多面的に理解する意義深い活動になっています。

【実行委員会OB・OG】

実行委員を経験したことがある高校生や社会人がボランティアとして、「おぼけやしき」の運営を手伝いに来てくれることがあります。卒業生が気軽に顔を出せる良い機会にもなっています。

遊びによる
子どもの育成

子どもの
居場所の提供

子どもが意見を
述べる場の提供

配慮を必要とする
子どもへの対応

子育て支援の実施

地域の健全育成の
環境づくり

ボランティア等の
育成と活動支援

放課後児童クラブの
実施と連携



活動を通して得た「気づき」

子どもが持つ力

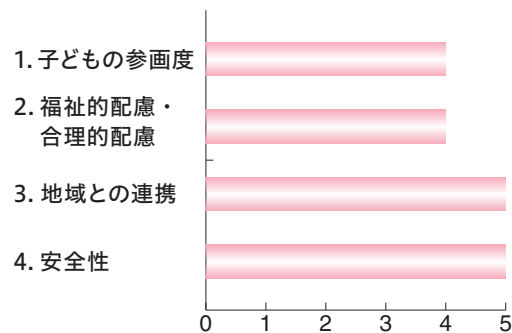
子どもたちが自由に意見を述べられるようになると、とても豊かな想像力で、大人では思いつかないようなことを提案します。また、自主性を尊重することで、思わぬ実行力を見せるなど、子どもが持つ力には、驚かされます。

スケジュール管理も工夫

実行委員になることができる4年生にもなると、大半の子どもたちが習い事をしており、児童館側がスケジュールを組んでも、なかなかうまくいきません。ところが、スケジュールの管理も子どもたちに委ねるようにすると、工夫して、隙間の時間を見つけて集まろうとする傾向が見られます。中学生、高校生がさらに忙しいのは言うまでもありません。



職員による自己評価



1. 子どもの参画度…4

高校生に関しては、参画の度合いが上がっていません。

2. 福祉的配慮・合理的配慮…4

「おばけやしき」は入場無料であり、用いる材料も児童館で用意しているため、誰でも参加できます。障害があることを理由に参加が拒否されることもありませんが室内を迷路のようにしている関係で、車いすでの入場は難しいです。

3. 地域との連携…5

4. 安全性…5



その他

八王子市では、市内にある全児童館が一緒に実施する事業や、ブロックごとに活動する事業があります。そうした共同の事業においては、各館の館長、運営主体の八王子市子ども家庭部児童青少年課の職員が、情報を共有したり、意見交換を行ったりしています。職員研修の一環として、職員が他児童館の活動を見学に行くこともあります。いずれも、職員が引き出しを増やす上でとても役に立っています。